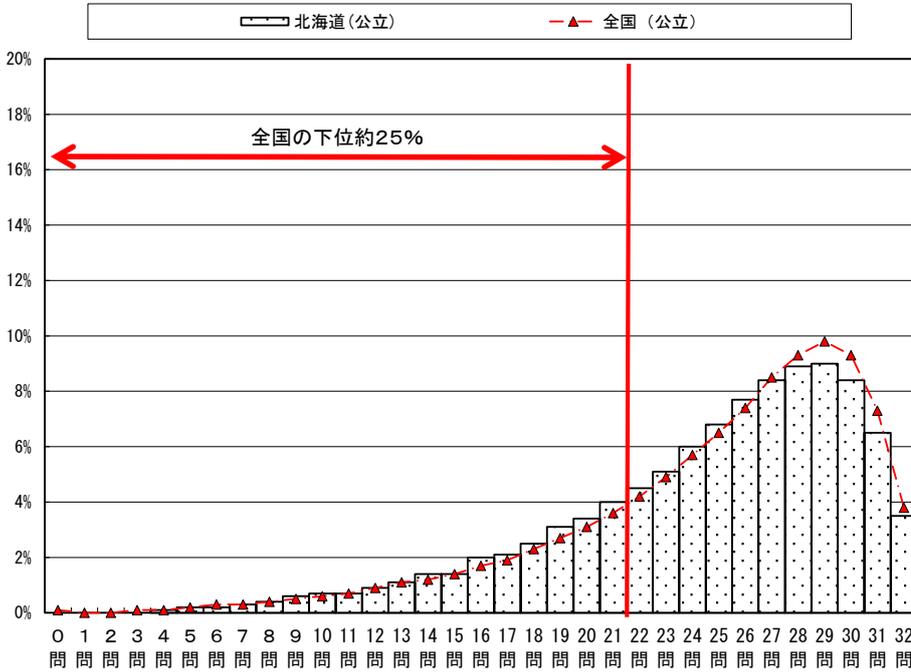


■ 中学校国語A

【概要】

- 平均正答率は76.7%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.5ポイント（H28）から-0.7ポイントに広がった。
〔参考〕平成26年度小学校国語Aの全国平均正答率との差は、-1.1ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	37,265	24.5 / 32	77 [76.7]	26.0	5.6
全国（公立）	982,511	24.8 / 32	77 [77.4]	26.0	5.7

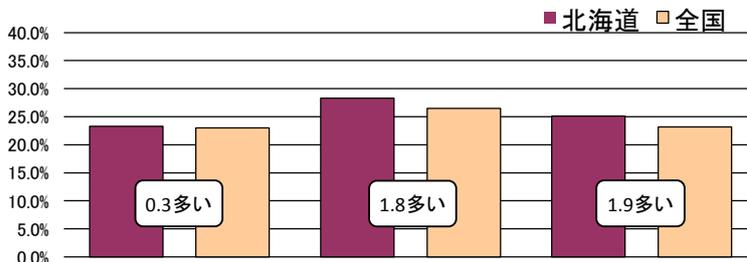


● 全国の下位約25%は、21問以下の正答数（正答率は65.6%以下）。

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.0	0.1
1問（3.1%）	0.0	0.0
2問（6.3%）	0.0	0.0
3問（9.4%）	0.0	0.1
4問（12.5%）	0.1	0.1
5問（15.6%）	0.2	0.2
6問（18.8%）	0.2	0.3
7問（21.9%）	0.3	0.3
8問（25.0%）	0.4	0.4
9問（28.1%）	0.6	0.5
10問（31.3%）	0.7	0.6
11問（34.4%）	0.7	0.7
12問（37.5%）	0.9	0.9
13問（40.6%）	1.1	1.1
14問（43.8%）	1.4	1.2
15問（46.9%）	1.4	1.4
16問（50.0%）	2.0	1.7
17問（53.1%）	2.1	1.9
18問（56.3%）	2.5	2.3
19問（59.4%）	3.1	2.7
20問（62.5%）	3.4	3.1
21問（65.6%）	4.0	3.6
22問（68.8%）	4.5	4.2
23問（71.9%）	5.1	4.9
24問（75.0%）	6.0	5.7
25問（78.1%）	6.8	6.5
26問（81.3%）	7.7	7.4
27問（84.4%）	8.4	8.5
28問（87.5%）	8.9	9.3
29問（90.6%）	9.0	9.8
30問（93.8%）	8.4	9.3
31問（96.9%）	6.5	7.3
32問（100.0%）	3.5	3.8

21問以下の割合	25.1	23.2
----------	------	------

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	23.3%	23.0%	28.3%	26.5%	25.1%	23.2%
正答数	33問中 21問以下		33問中 22問以下		32問中 21問以下	
全国との差	0.3 多い		1.8 多い		1.9 多い	

+1.5

+0.1

〔参考〕

平成26年度小学校国語A

全道	全国
29.7%	28.2%
全国との差	1.5多い

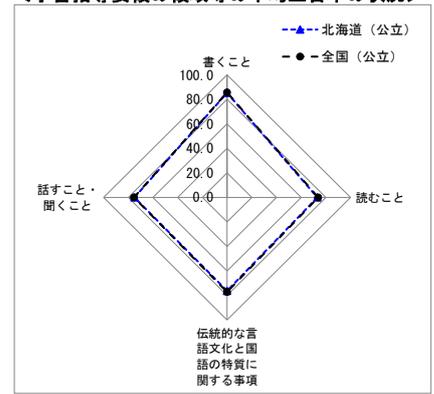
問題別調査結果 [中学校・国語A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）		
	559	9,539		37,265	982,511		
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）				
			北海道（公立）	全国（公立）			
全体					32	77 [76.7]	77 [77.4]
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	75.0	75.4			
	書くこと	4	85.3	85.7			
	読むこと	6	73.1	73.8			
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	76.3	77.2			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0					
	話す・聞く能力	4	75.0	75.4			
	書く能力	4	85.3	85.7			
	読む能力	6	73.1	73.8			
	言語についての知識・理解・技能	18	76.3	77.2			
問題形式	選択式	22	78.1	78.5			
	短答式	10	73.5	75.1			
	記述式	0					

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1	画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する				2 (1) イ (7)									81.6	81.4	0.1	0.1
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	2 ウ												85.9	87.8	0.1	0.1
2二	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する	事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す	1 イ												78.7	79.6	0.2	0.3
3一	それまでがんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す	書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く	2 エ												84.9	86.0	3.6	3.3
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する	書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す	2 オ												83.9	84.3	0.2	0.2
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	文章の要旨を捉える			1 イ										80.3	81.0	0.1	0.2
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ			1 エ										72.4	72.9	0.2	0.3
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成を工夫して分かりやすく書く	2 イ												79.7	79.8	0.2	0.2
5二	〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する	目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる	1 ア												92.7	92.7	0.1	0.2
6一	登場する人物を整理したものに当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	1 ウ												73.1	74.8	0.4	0.5
6二	「どれもこれも仁王を戴しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する		1 ウ												58.3	60.1	0.4	0.5
7一	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す	相手に分かりやすいように語句を選択して話す	1 ウ												54.8	54.0	5.1	5.1
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する	話すための材料を人との交流を通して集める	1 ア												80.7	80.4	0.3	0.4
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する	文章の表現の仕方について自分の考えをもつ			2 ウ										81.9	81.9	0.5	0.6
8二	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする			1 オ										72.5	72.3	0.6	0.8

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
9-1	漢字を書く(組織の <u>主</u> を大きくする)	文脈に即して漢字を正しく書く				2(1)ウ(4)						○	○		53.1	62.8	19.5	15.8
9-2	漢字を書く(雨で運動会が <u>エ</u> ンキになる)					2(1)ウ(4)						○	○		58.0	62.3	13.1	13.5
9-3	漢字を書く(店を <u>イ</u> トナむ)					2(1)ウ(4)						○	○		84.2	85.4	9.1	8.3
9-2-1	漢字を読む(堂 <u>悟</u> を決める)	文脈に即して漢字を正しく読む				2(1)ウ(7)						○	○		99.2	98.7	0.5	0.9
9-2-2	漢字を読む(鮭やかな色 <u>合</u> い)					2(1)ウ(7)						○	○		93.9	94.5	0.5	0.8
9-2-3	漢字を読む(水が <u>垂</u> れる)					2(1)ウ(7)						○	○		95.1	94.3	0.7	1.1
9-3ア	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				1(1)イ(9)						○	○		74.9	76.9	0.5	0.7
9-3イ	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、 <u>急</u> がば <u>回</u> れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)					1(1)イ(9)						○	○		59.1	61.4	0.6	0.7
9-3ウ	適切な敬語を選択する(先生もこの書店をよく <u>ご</u> 利用になるのですね)					2(1)イ(7)						○	○		82.7	85.7	0.5	0.7
9-3エ	適切な語句を選択する(私は映画が大好きです。 <u>た</u> だ <u>し</u> 、映画なら何でも見るわけではありません)					1(1)イ(2)						○	○		95.7	95.5	0.4	0.6
9-3オ	適切な語句を選択する(チームの勝利を確信する)					2(1)イ(4)						○	○		94.9	94.2	0.5	0.6
9-4	言い直した意図として適切なものを選択する	助詞の働きについて理解する				2(1)イ(2)						○	○		91.5	91.6	0.5	0.7
9-5	話合いの記録として適切な言葉を考える	事象や行為などを表す多様な語句について理解する				1(1)イ(9)						○	○		36.5	35.8	13.4	13.1
9-6-1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する	楷書と行書との違いを理解する				1(2)イ						○	○		53.0	49.6	0.8	1.0
9-6-2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する				1(2)イ						○	○		63.1	63.7	0.9	1.1
9-7-1	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す(あやしう)	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える				2(1)ア(4)						○	○		75.5	77.2	3.5	3.9
9-7-2	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する	古典には様々な種類の作品があることを知る				1(1)ア(4)						○	○		81.4	78.5	1.2	1.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	16/33問	9/33問	13/32問
無解答率が全国以下の問題数	30/33問	24/33問	28/32問
無解答率が5%以上の問題数	5/33問	6/33問	5/32問

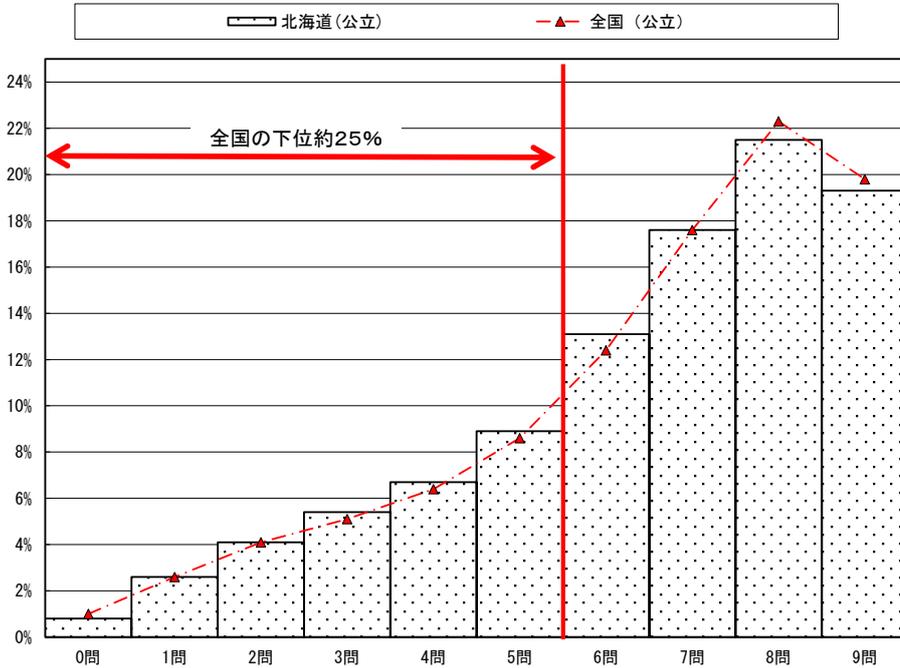
■ 中学校国語B

【概要】

- 平均正答率は71.7%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.5ポイント（H28）から-0.5ポイントに縮まった。
〔参考〕平成26年度小学校国語Bの全国平均正答率との差は、-2.6ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	37,254	6.5 / 9	72 [71.7]	7.0	2.2
全国（公立）	982,619	6.5 / 9	72 [72.2]	7.0	2.3

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.8	1.0
1問（11.1%）	2.6	2.6
2問（22.2%）	4.1	4.1
3問（33.3%）	5.4	5.1
4問（44.4%）	6.7	6.4
5問（55.6%）	8.9	8.6
6問（66.7%）	13.1	12.4
7問（77.8%）	17.6	17.6
8問（88.9%）	21.5	22.3
9問（100.0%）	19.3	19.8



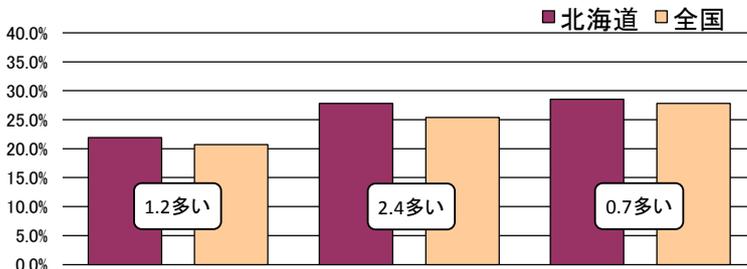
5問以下の割合	28.5	27.8
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、5問以下の正答数（正答率は55.6%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	21.9%	20.7%	27.8%	25.4%	28.5%	27.8%
正答数	9問中 4問以下		9問中 4問以下		9問中 5問以下	
全国との差	1.2 多い		2.4 多い		0.7 多い	

+1.2 -1.7

〔参考〕

平成26年度小学校国語B

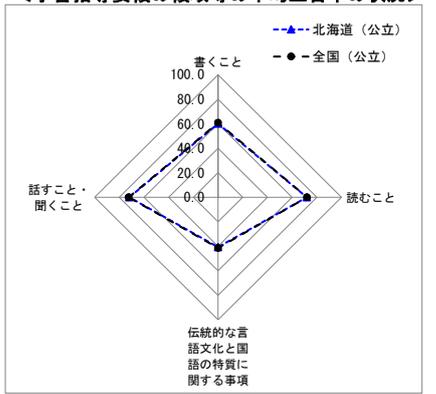
全道 全国
23.9% 21.0%
全国との差 2.9多い

問題別調査結果 [中学校・国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	559	9,539		37,254	982,619
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体			9	72 [71.7]	72 [72.2]
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	71.9	72.4	
	書くこと	4	60.1	60.8	
	読むこと	4	71.9	72.1	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	40.7	41.4	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	55.2	55.9	
	話す・聞く能力	3	71.9	72.4	
	書く能力	4	60.1	60.8	
	読む能力	4	71.9	72.1	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	1	40.7	41.4	
	選択式	5	79.2	79.6	
	短答式	1	83.8	84.1	
	記述式	3	55.2	55.9	

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1一	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する		2イ					○		○				84.6	84.1	0.1	0.1
1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ					○		○			83.8	84.1	5.0	5.3
1三	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	1ウ	1エ	1(1)イ(4)	○		○	○			○		40.7	41.4	18.1	14.3	
2一	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	2ウ					○			○				84.9	85.4	0.2	0.2
2二	聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2エ					○			○				73.2	74.2	0.2	0.3
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	1イ	2ウ		○	○	○				○			57.5	57.6	7.2	5.8
3一	下書きについての説明として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する		1イ					○		○				75.1	75.3	0.2	0.3
3二	太宰治と他の作家との関係を書き直したものととして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る			1カ						○	○			78.3	78.7	0.3	0.5
3三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く	必要な情報を集めるための見通しをもつ		1ア		○		○				○			67.2	68.8	8.8	7.4

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

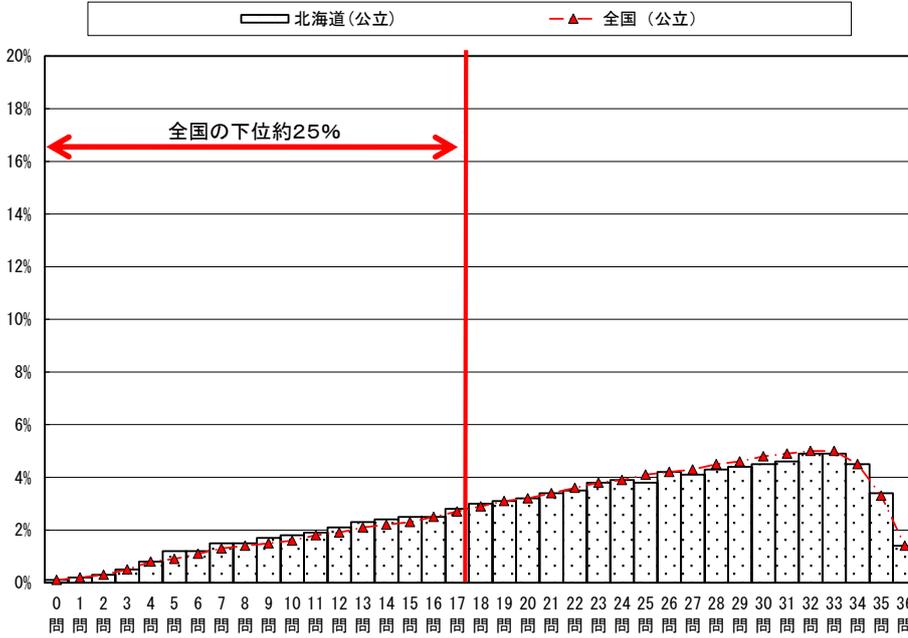
	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	4/9問	1/9問	1/9問
無解答率が全国以下の問題数	6/9問	6/9問	6/9問
無解答率が5%以上の問題数	2/9問	3/9問	4/9問

■ 中学校数学A

【概要】

- 平均正答率は63.7%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.4ポイント（H28）から-0.9ポイントに広がった。
〔参考〕平成26年度小学校算数Aの全国平均正答率との差は、-2.3ポイント

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	37,252	22.9 / 36	64 [63.7]	24.0	8.6
全国(公立)	982,811	23.3 / 36	65 [64.6]	25.0	8.5

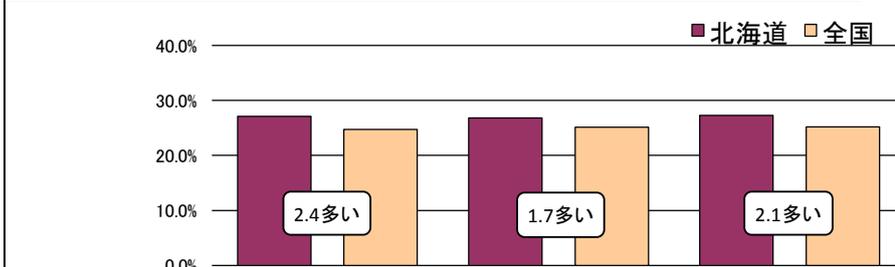


● 全国の下位約25%は、17問以下の正答数（正答率は47.2%以下）。

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問(0.0%)	0.1	0.1
1問(2.8%)	0.2	0.2
2問(5.6%)	0.3	0.3
3問(8.3%)	0.5	0.5
4問(11.1%)	0.8	0.8
5問(13.9%)	1.2	0.9
6問(16.7%)	1.2	1.1
7問(19.4%)	1.5	1.3
8問(22.2%)	1.5	1.4
9問(25.0%)	1.7	1.5
10問(27.8%)	1.8	1.6
11問(30.6%)	1.9	1.8
12問(33.3%)	2.1	1.9
13問(36.1%)	2.3	2.1
14問(38.9%)	2.4	2.2
15問(41.7%)	2.5	2.3
16問(44.4%)	2.5	2.5
17問(47.2%)	2.8	2.7
18問(50.0%)	3.0	2.9
19問(52.8%)	3.1	3.1
20問(55.6%)	3.2	3.2
21問(58.3%)	3.4	3.4
22問(61.1%)	3.5	3.6
23問(63.9%)	3.8	3.8
24問(66.7%)	3.9	3.9
25問(69.4%)	3.8	4.1
26問(72.2%)	4.2	4.2
27問(75.0%)	4.1	4.3
28問(77.8%)	4.3	4.5
29問(80.6%)	4.4	4.6
30問(83.3%)	4.5	4.8
31問(86.1%)	4.6	4.9
32問(88.9%)	4.9	5.0
33問(91.7%)	4.9	5.0
34問(94.4%)	4.5	4.5
35問(97.2%)	3.4	3.3
36問(100.0%)	1.4	1.4

17問以下の割合	27.3	25.2
----------	------	------

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	27.1%	24.7%	26.8%	25.1%	27.3%	25.2%
正答数	36問中 17問以下		36問中 16問以下		36問中 17問以下	
全国との差	2.4 多い		1.7 多い		2.1 多い	

-0.7 +0.4

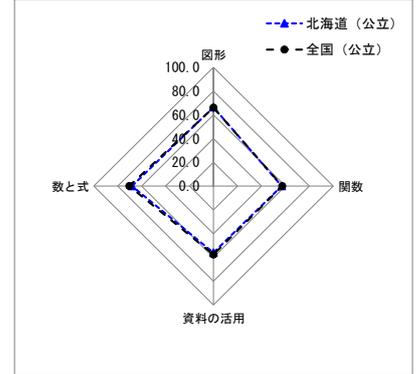
〔参考〕
平成26年度小学校算数A
全道 全国
29.8% 25.6%
全国との差 4.2多い

問題別調査結果 [中学校・数学A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	559	9,538		37,252	982,811
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			36	64 [63.7]	65 [64.6]
学習指導要領の領域	数と式	12	68.1	70.4	
	図形	12	66.4	66.0	
	関数	8	56.9	57.4	
	資料の活用	4	56.0	57.6	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	20	66.4	68.2	
	数量や図形などについての知識・理解	16	60.3	60.2	
問題形式	選択式	13	66.8	66.8	
	短答式	23	61.9	63.4	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1(1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	小6(1)イ					○*							82.0	87.1	1.7	1.3
1(2)	a と b が負の数にときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	1(1)イ						○	○					67.0	69.3	0.1	0.2
1(3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1(1)ウ					○			○				70.2	75.6	1.2	1.1
1(4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1(1)ア、エ						○			○			87.6	89.4	3.0	2.8
2(1)	5mの重さが a g の針金の1mの重さを、 a を用いた式で表す	数量の関係を文字式で表すことができる	1(2)エ						○			○			53.1	56.3	10.0	8.1
2(2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	1(2)エ						○			○			72.4	75.4	0.2	0.3
2(3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア						○			○			77.5	78.5	1.6	1.7
2(4)	等式 $x + 4y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができる	2(1)ウ						○			○			53.5	56.1	10.8	8.8
3(1)	一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ						○			○			82.0	82.7	6.7	6.4
3(2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1(3)ウ						○			○			52.2	52.8	17.0	16.6
3(3)	$x + y = 2$ の解の意味について選ぶ	二元一次方程式の解の意味を理解している	2(2)ア							○	○				60.9	59.6	0.8	1.0
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ						○			○			59.0	62.2	16.3	14.9
4(1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1(1)ア							○	○				66.8	67.4	0.8	1.0
4(2)	$\triangle ABC$ を、点 A から点 P に移すように平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかきことができる	1(1)イ							○			○		90.6	90.6	2.1	2.5
4(3)	半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	扇形の弧の長さを求めることができる	1(2)ウ						○			○			31.4	30.7	20.0	19.7
5(1)	直方体において、与えられた辺に平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	1(2)ア							○		○			66.6	67.0	3.1	2.9
5(2)	1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ	円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している	1(2)イ							○	○				89.2	90.1	0.3	0.4
5(3)	立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる	1(2)イ						○			○			77.5	80.2	0.5	0.6
5(4)	円柱の体積を求める	円柱の体積を求めることができる	1(2)ウ						○			○			50.0	51.8	11.2	9.7

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している		2(1) ア											47.7	43.1	0.5	0.6
6(2)	n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を数える	多角形の内角の和の求め方を理解している		2(1) イ											73.1	69.4	0.7	0.9
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2) ア											79.2	78.6	4.9	4.9
7(2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している		2(2) ウ											47.3	49.1	0.7	0.9
8	事柄「 $\angle ABD = \angle CBD$ 、 $\angle ADB = \angle CDB$ ならば、 $AB = CB$ である。」の仮定をすべて書く	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる		2(2) イ							○				76.8	74.3	10.1	10.1
9	長方形の縦の長ささと面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している		1(1) ア							○				20.1	20.6	22.1	20.6
10(1)	比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる		1(1) エ							○				82.8	84.6	8.3	7.3
10(2)	比例のグラフから式を求める	与えられた比例のグラフから、 x と y の関係を $y = ax$ の式で表すことができる		1(1) エ							○				54.9	57.1	10.6	9.6
10(3)	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している		1(1) イ							○				34.4	34.4	21.2	20.8
11(1)	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 x と y の関係を $y = ax + b$ の式で表すことができる		2(1) イ							○				75.2	75.9	11.0	10.1
11(2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している		2(1) イ							○	○			58.0	56.0	1.5	1.7
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる		2(1) ア							○				66.9	67.6	0.9	1.1
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している		2(1) ウ							○	○			63.1	63.0	2.0	2.2
14(1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している									○				25.7	28.6	11.3	9.6
14(2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる									○				43.2	45.5	18.2	15.0
15(1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	「同様に確からしい」ことの意味を理解している		2(1) ア							○	○			78.6	78.0	1.5	1.8
15(2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる		2(1) ア							○				76.4	78.3	8.9	7.9

* 評価の観点は、数量や図形についての技能(小学校)に対応させている。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	5/36問	11/36問	11/36問
無解答率が全国以下の問題数	7/36問	10/36問	17/36問
無解答率が5%以上の問題数	12/36問	17/36問	16/36問

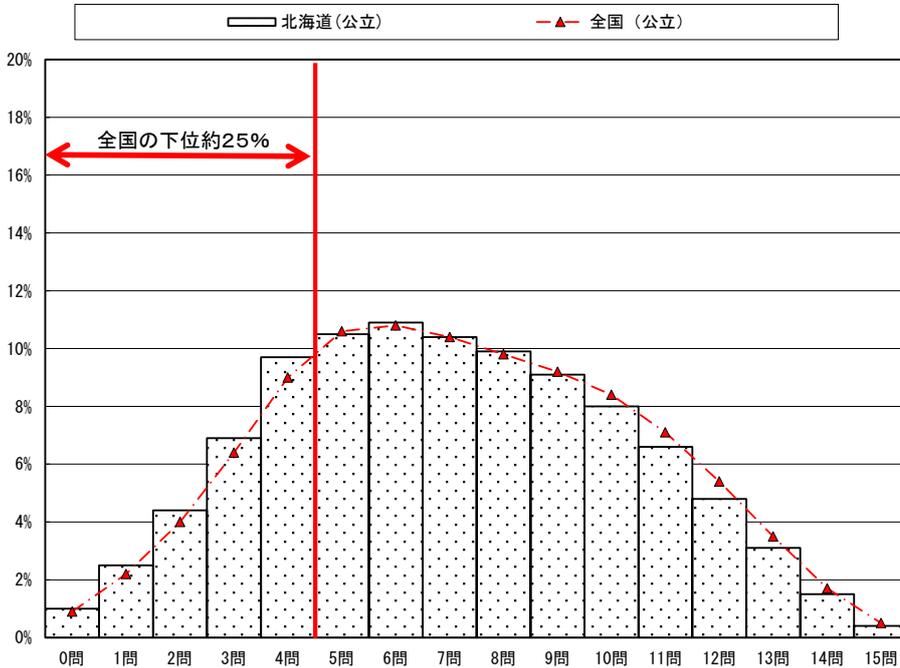
■ 中学校数学B

【概要】

- 平均正答率は46.9%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.8ポイント（H28）から-1.2ポイントに広がった。
〔参考〕平成26年度小学校算数Bの全国平均正答率との差は、-3.0ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	37,248	7.0 / 15	47 [46.9]	7.0	3.3
全国（公立）	982,786	7.2 / 15	48 [48.1]	7.0	3.3

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	1.0	0.9
1問（6.7%）	2.5	2.2
2問（13.3%）	4.4	4.0
3問（20.0%）	6.9	6.4
4問（26.7%）	9.7	9.0
5問（33.3%）	10.5	10.6
6問（40.0%）	10.9	10.8
7問（46.7%）	10.4	10.4
8問（53.3%）	9.9	9.8
9問（60.0%）	9.1	9.2
10問（66.7%）	8.0	8.4
11問（73.3%）	6.6	7.1
12問（80.0%）	4.8	5.4
13問（86.7%）	3.1	3.5
14問（93.3%）	1.5	1.7
15問（100.0%）	0.4	0.5



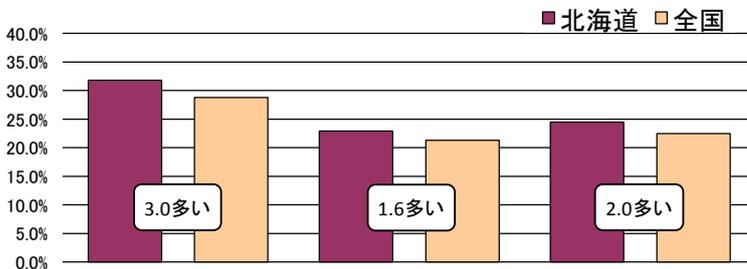
4問以下の割合	24.5	22.5
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、4問以下の正答数（正答率は26.7%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



	H27		H28		H29	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	31.8%	28.8%	22.9%	21.3%	24.5%	22.5%
正答数	15問中 3問以下		15問中 3問以下		15問中 4問以下	
全国との差	3.0 多い		1.6 多い		2.0 多い	

-1.4

+0.4

〔参考〕

平成26年度小学校算数B

全道 全国

32.3% 28.1%

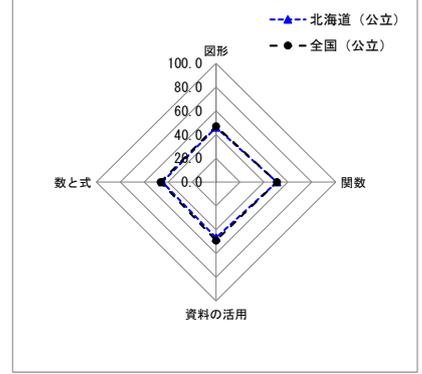
全国との差 4.2多い

問題別調査結果 [中学校・数学B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立） 559	全国（公立） 9,538	対象生徒数	北海道（公立） 37,248	全国（公立） 982,786
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体		15	47 [46.9]	48 [48.1]	
学習指導要領の領域	数と式	3	44.9	46.3	
	図形	6	46.0	47.1	
	関数	3	50.8	50.8	
	資料の活用	3	46.8	49.1	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	10	35.2	36.8	
	数学的な技能	3	61.4	61.2	
	数量や図形などについての知識・理解	2	83.4	85.1	
問題形式	選択式	4	53.1	53.8	
	短答式	6	65.6	66.3	
	記述式	5	19.5	21.7	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1 (1)	隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ	事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1)イ				○			○		67.5	67.5	0.1	0.2	
1 (2)	四角形ABCDの模様を1回の回転移動によって四角形BEFGの模様になるか、どのような回転移動になるかを説明する	2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる		1 (1)イ			○			○		13.1	14.0	19.9	17.7		
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる		1 (1)イ			○			○		51.4	52.8	0.2	0.3		
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1 (2)ア				○			○		79.3	80.4	1.3	1.3		
2 (2)	六角形をn個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	1 (2)ア				○			○		42.5	44.1	8.9	8.3		
2 (3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、6+5(n-1)という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	1 (2)ア				○			○		13.0	14.5	28.1	23.4		
3 (1)	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万 ³ であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		1 (1)ウ			○			○		90.0	90.8	3.7	3.5		
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 ³ になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		2 (1)イ、エ			○			○		15.3	18.4	37.3	33.4		
3 (3)	与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる		2 (1)イ			○			○		47.0	43.2	18.5	17.5		
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる		2 (2)イ、ウ			○			○		42.3	44.1	23.1	20.3		
4 (2)	∠BADと∠CBEが20°のとき、∠BEAの大きさを求める	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる		2 (1)ア			○			○		58.0	60.0	11.9	10.9		
4 (3)	点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、∠BFDの大きさについて、正しい記述を選ぶ	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる		2 (1)ア 2 (2)ウ			○			○		43.7	44.5	0.8	0.9		
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる		1 (1)ア			○			○		76.8	79.3	7.4	5.9		
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ	与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる		1 (1)ア、イ			○			○		49.7	50.3	0.6	0.8		
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		1 (1)イ			○			○		13.9	17.6	36.0	31.2		

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H28	H29
平均正答率が全国以上の問題数	3/15問	4/15問	2/15問
無解答率が全国以下の問題数	3/15問	2/15問	5/15問
無解答率が5%以上の問題数	11/15問	10/15問	9/15問

■ 過去の同一問題との比較

- 過去の全国学力・学習状況調査との同一問題（6問）について、全国平均以上の問題は1問。また、全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題は4問、差が広がった問題は1問。

	全国平均以上の問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が広がった問題の数
小学校調査	1	1	0
中学校調査	0	3	1

※ 過去の調査とは、平成19～22、24～28年度の全国学力・学習状況調査を指す。

なお、各調査の対象児童生徒や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

〔小学校国語〕 該当無し

〔小学校算数〕

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
A 2 (3)	6 + 0.5 × 2 を計算する	60.0%	66.6%	平成19年度	55.0%	68.9%
		-6.6			-13.9	
A 3	8 と 12 の最小公倍数を求め	86.5%	86.2%	平成24年度 (中学校で出題)	63.7%	67.7%
		+0.3			-4.0	

〔中学校国語〕

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
A 9 三イ	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）	59.1%	61.4%	平成26年度	57.2%	59.2%
		-2.3			-2.0	

〔中学校数学〕

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
A 7 (2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	47.3%	49.1%	平成25年度	44.0%	47.7%
		-1.8			-3.7	
A 12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	66.9%	67.6%	平成20年度	62.4%	63.2%
		-0.7			-0.8	
A 15 (2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	76.4%	78.3%	平成20年度	72.3%	74.6%
		-1.9			-2.3	

4. 質問紙調査

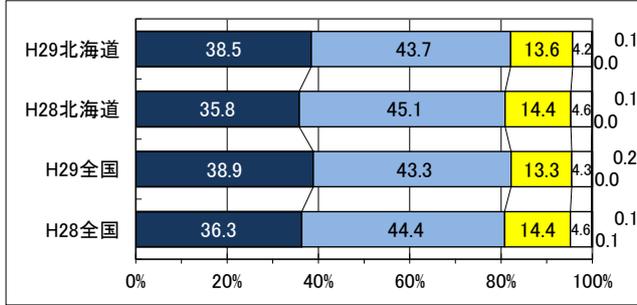
■ 「2. 結果の概要」で示した項目

- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」
(児童生徒 質問番号 小71、中73)

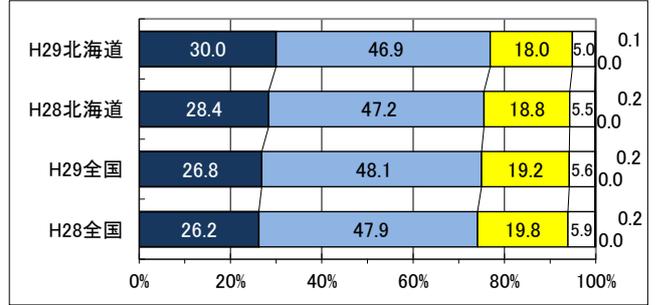
「1. 当てはまる」、「2. どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校、中学校とも1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で2.0ポイント高い。

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉

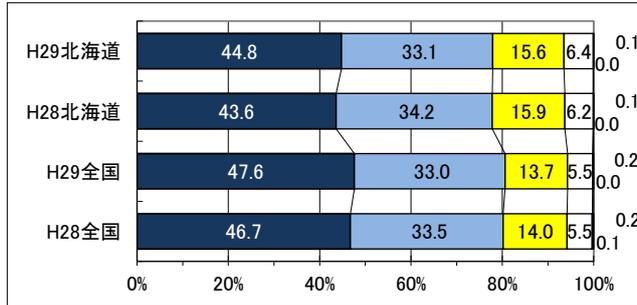


- 「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」
(児童生徒 質問番号 小80、中82)

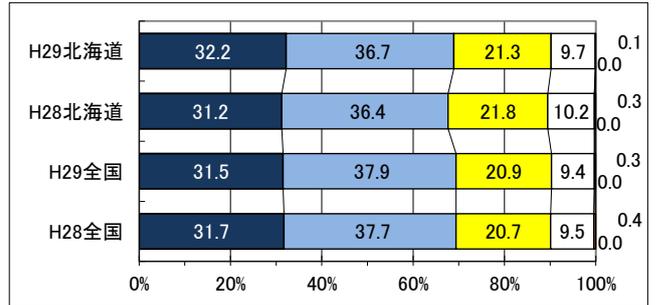
「1. 当てはまる」、「2. どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.1ポイント、中学校で1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.7ポイント、中学校で0.5ポイント低い。

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉

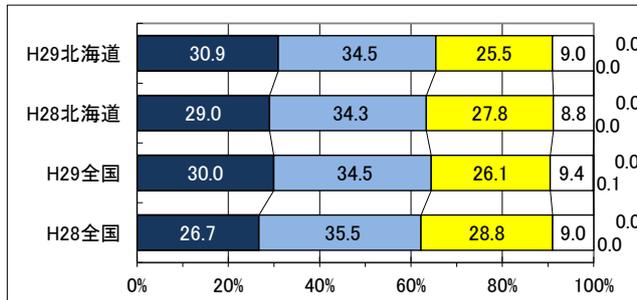


- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」
(児童生徒 質問番号 小29、中31)

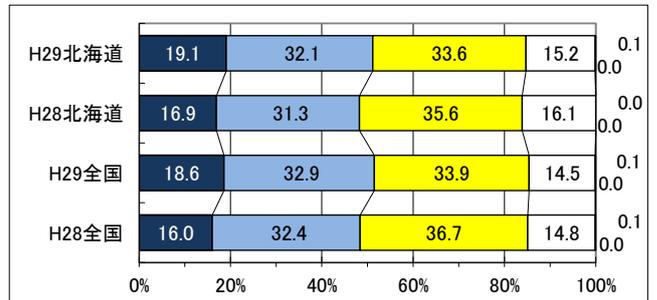
「1. している」、「2. どちらかといえば、している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で3.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.9ポイント高く、中学校で0.3ポイント低い。

■ 1. している ■ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



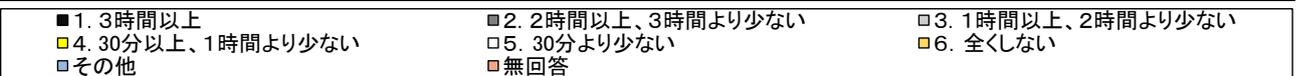
〈中学校〉



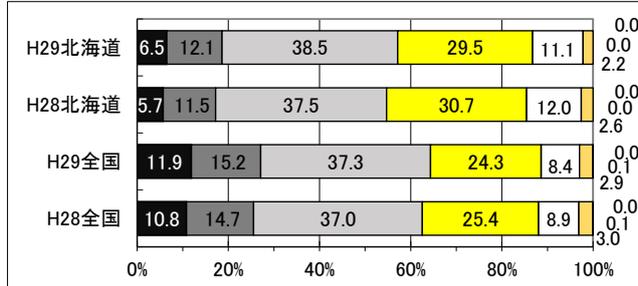
- 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」

(児童生徒 質問番号 小15、中15)

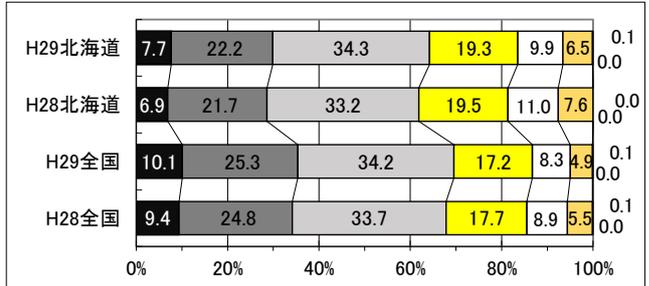
1日当たり1時間以上勉強すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校、中学校とも2.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.3ポイント、中学校で5.4ポイント低い。



〈小学校〉



〈中学校〉



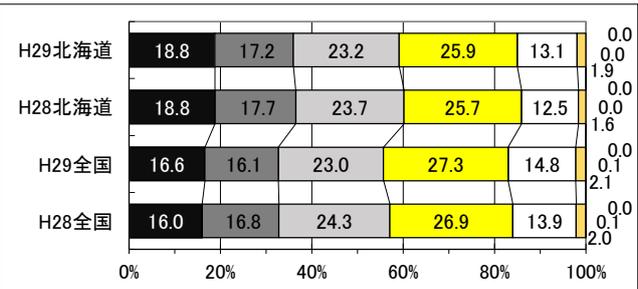
- 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」

(児童生徒 質問番号 小12、中12)

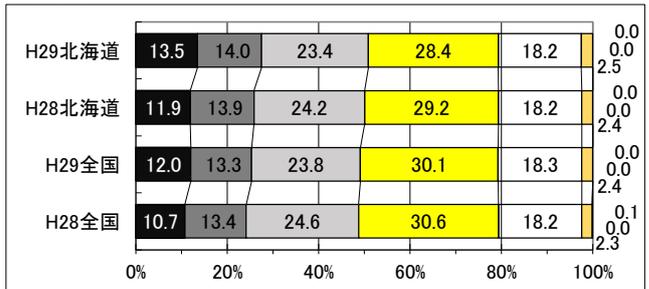
1日当たり3時間以上すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント低く、中学校で1.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.3ポイント、中学校で2.2ポイント高い。



〈小学校〉



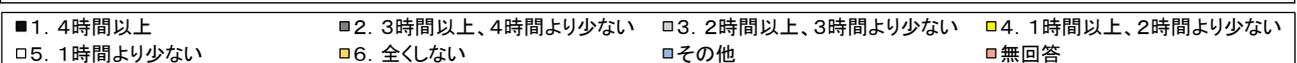
〈中学校〉



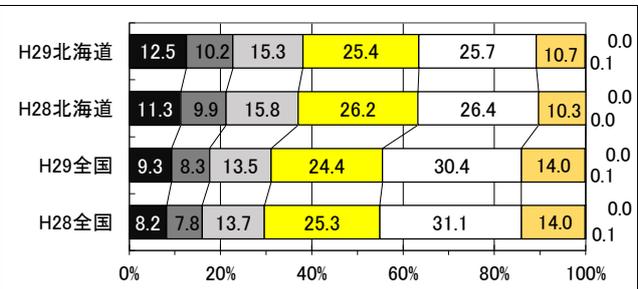
- 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」

(児童生徒 質問番号 小13、中13)

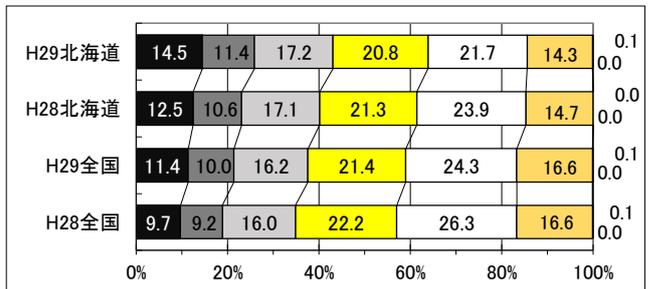
1日当たり3時間以上すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.5ポイント、中学校で2.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.1ポイント、中学校で4.5ポイント高い。



〈小学校〉



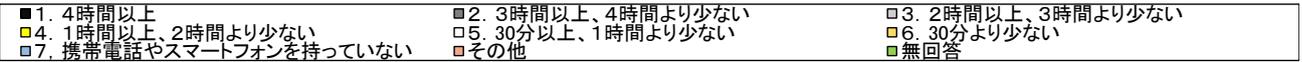
〈中学校〉



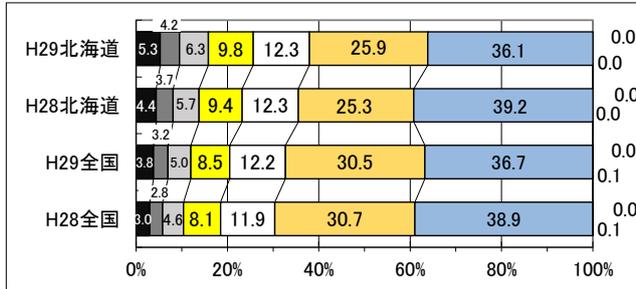
- 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」

(児童生徒 質問番号 小14、中14)

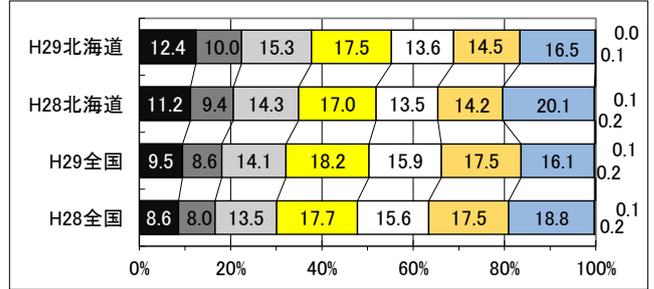
1日当たり3時間以上すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で1.8高い。全国と比べて、小学校で2.5ポイント、中学校で4.3ポイント高い。



〈小学校〉



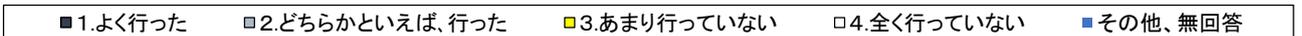
〈中学校〉



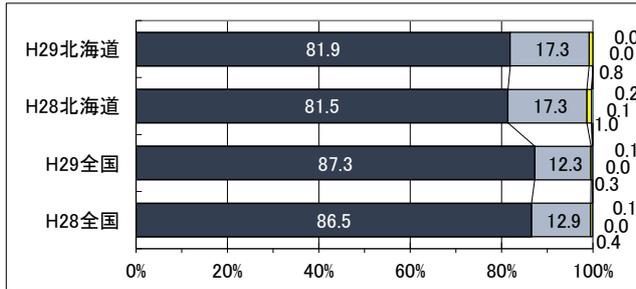
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」

(学校 質問番号 小90、中88)

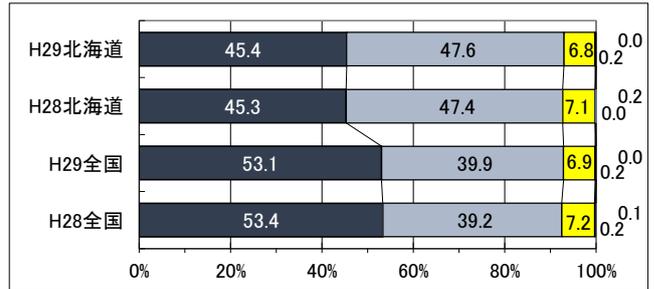
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.4ポイント、中学校で0.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.4ポイント、中学校で7.7ポイント低い。



〈小学校〉



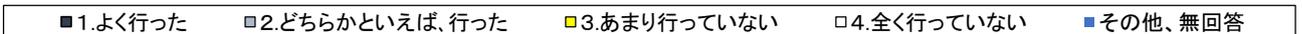
〈中学校〉



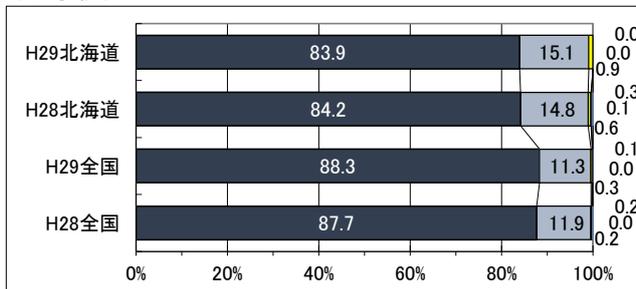
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」

(学校 質問番号 小92、中90)

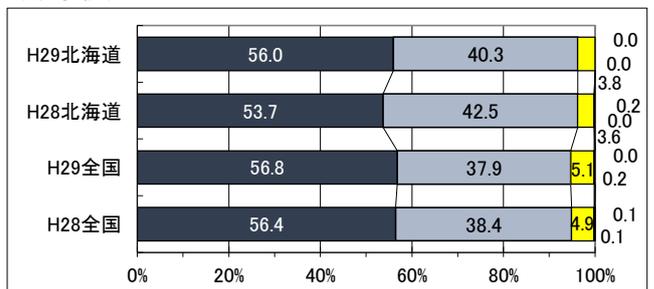
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.3ポイント低く、中学校で2.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で0.8ポイント低い。



〈小学校〉



〈中学校〉



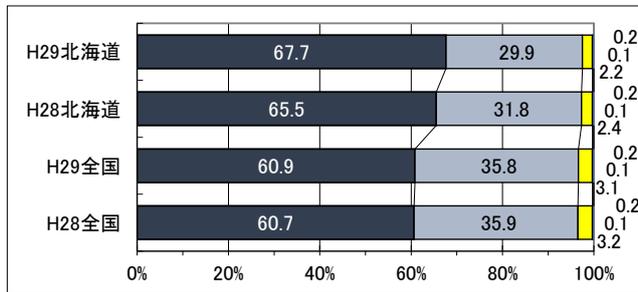
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか」

(学校 質問番号 小48、中48)

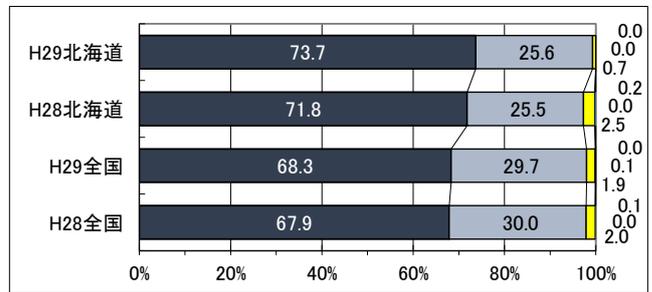
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で2. 2ポイント、中学校で1. 9ポイント高い。全国と比べて、小学校で6. 8ポイント、中学校で5. 4ポイント高い。

■ 1.よく行った □ 2.どちらかといえば、行った ■ 3.あまり行っていない □ 4.全く行っていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



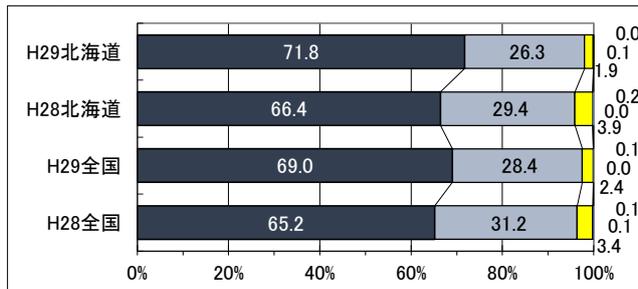
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導しましたか」

(学校 質問番号 小38、中38)

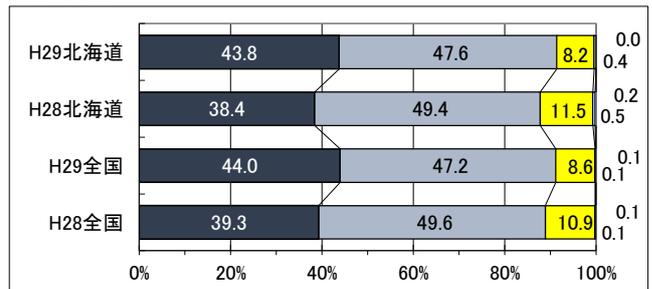
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校、中学校とも5. 4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2. 8ポイント高く、中学校で0. 2ポイント低い。

■ 1.よく行った □ 2.どちらかといえば、行った ■ 3.あまり行っていない □ 4.全く行っていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



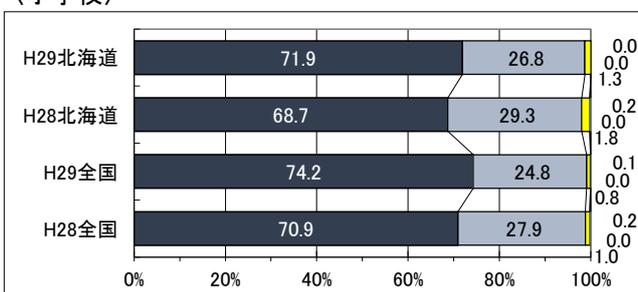
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか」

(学校 質問番号 小33、中33)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で3. 2ポイント、中学校で5. 4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2. 3ポイント、中学校で3. 5ポイント低い。

■ 1.よく行った □ 2.どちらかといえば、行った ■ 3.あまり行っていない □ 4.全く行っていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉

